



NO. 324

2020. 6. 15

社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会

大阪市天王寺区東高津町12-10

大阪市立社会福祉センターB1F

発行責任者 小泉 いと子

TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623

http://city-osaka-ikuseikai.or.jp

定価 10円

大阪市手をつなぐ育成会 法人理念

障がいのある人が 安心して 心豊かに すごせるように

「新しい生活様式」を意識して

様々な局面に立ち向かっていきましょう!

理事長 小泉 いと子

日頃は育成会活動にご支援頂きましてありがとうございます。

今月に入り、長い長いトンネルからかすかな光が見えてきた今日この頃、政府の「緊急事態宣言」も解除されましたが、これから引き続き新型コロナウイルスの第2波と向き合う生活が始まろうとしています。

今日に至るまで、様々な情報に翻弄されながら、予防に努め、自分自身の体調を管理するという、いまだかつてない不安との戦いだったと思います。

また、家族など身近な方に陽性反応が出た方もいらっしゃると思います。

お仕事とはいえ、勇敢に立ち向かって下さった皆様には、心より感謝・敬意の言葉をお伝えしたいです。

最近では、「新しい生活様式」という言葉をよく耳にします。先日の新聞記事にありました政府の専門家会議に参加されている国際医療福祉大学教授 和田耕治氏の「新しい生活様式」についての記事を抜粋してご紹介します。

「新しい生活様式」は、新型コロナウイルスの感染拡大がある程度収まった段階で、生活や社会のあらゆる場面で感染予防に取り組むことによって、再流行を抑えようと考えられたもので、専門家会議の議論の中から、飛沫感染と接触感染を予防する行動を「実践例」として挙げておられます。

実践例は三つ。

- * 身体的距離の確保
- * 話すときのマスク着用
- * 手洗いの励行

この三つはあらゆる場面でぜひ取り組んでいただきたいとのことでした。

国内外の状況を見ると、この感染症はわずか1週間で局面が変わりうるものです。

高齢者施設や病院で、クラスターと呼ばれる大規模な感染が起こりやすく、高齢者は重症化しやすいうえに、重症者は退院まで時間がかかり、多くの医療スタッフがかりきりになるため、医療崩壊につながる危険性があります。万が一医療崩壊が起こってしまえば、諸外国のケースからも、死者数は急増することが予想されます。

こうした「新しい生活様式」は、ワクチンや治療薬が開発されるまで、1年以上続けなければならない可能性があります。大切なことは、各自、そして各地域で、流行状況に合わせて必要な感染症対策をそれぞれが「考える」ことです。

これからも、様々な局面があつて私たちの生活を変えていくと思いますが、これからも「新しい生活様式」を意識して皆様と一緒に立ち向かっていきたいと思ひます。



大阪市障がい者施策推進協議会「障がい者計画策定・推進部会」についての報告

(専門委員 ワーキング会議メンバー)

理事長 小泉 いと子

この度の大阪市障がい者施策推進協議会「障がい者計画策定ワーキング会議」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、各委員が一堂に会しての開催が困難な状況となり、まずは各委員から意見等を集約することになりましたので、次のとおり、大阪市手をつなぐ育成会から、大阪市障がい者施策推進会議事務局へ意見・要望等を提出しました。

